

令和3年度 学校関係者評価結果報告書

1 学校教育目標

□

学校名 成田市立新山小学校

『夢に向かって 心豊かに たくましく生きる児童の育成』
ー やさしく かしく たくましく 希望の登校 満足の下校の実現 ー

学校関係者評価委員

2 めざす児童像

①「やさしい子」・・・あいさつができる子、思いやりの心をもつ子、協力し合う子、善悪の判断ができる子、いつもありがとうと言える子
②「かしこい子」・・・基礎基本を身につけた子、学習の仕方を身につけた子、人の話を考えながら聞く子、自分の考えを話せる子、家庭学習の習慣を身につけた子
③「たくましい子」・・・基本的な生活習慣を身につけた子、給食を残さず食べる子、いつでも明るく生活する子、目標を決めて体を鍛える子、最後まであきらめない子

学校評議員

3 自己評価結果

分野・領域	評価項目	評価の指標(取組状況) A:85%以上, B:75%以上～85%未満, C:60%以上～75%未満, D:60%未満			分析・改善の方策	学校関係者評価	
						自己評価 の適切さ	改善に向け た取組の適 切さ
学習指導	指導方法を工夫し、わかりやすい授業の実践に努めている。	児童	「授業がよくわかる」96%	A	授業は、対面での実施に制約があったが、実験等ができない分はデジタル教科書やビデオ等の活用で対応するようにした。また、パーテーションを利用して、ミシン学習等に取り組むようにした。 特に、一人一台タブレット端末の活用を図った。職員も初めての取組だったが、可能な限り研修を行い、効果的な学習になるように努めた。各家庭に協力依頼しインターネット環境を整え、オンライン学習を実施した。スムーズに行うことができ、児童の技能向上や臨時休校時の備えにつなげることができた。	A	A
		職員	「教材研究を行い、わかりやすい授業を行うことができた」91%	A			
		保護者	「教師はわかりやすい授業に努めている」98%	A			
学力向上	個々の実態を把握し、児童の学力向上に向けて効果的な取り組みを実践している。	児童	「宿題をきちんとやっている」 95%	A	宿題は児童の自己評価が90%を超えた。学年×10分をめあてに家庭学習の習慣の定着を目標にしている。 学校では、今年度も月例テストを実施し基礎的・基本的な知識や技能の定着を図ってきた。さらに、新学習指導要領に示された主体的、対話的で深い学びの実現のために授業改善をしていきたい。 学校サポート教員・特別支援教育支援員・養護補助員・学習サポート教員と力を合わせ、よりきめ細やかな指導を実施していく。	A	A
			「宿題以外の勉強もしているか」 77%	B			
		職員	「児童の学力を高めることができた」 100%	A			
			保護者	「子どもが学習内容を理解している」90%			
学校関係者による意見等	・コロナ禍であったが、タブレット端末の活用をはじめとして、工夫して「わかりやすい授業」をしている。 ・児童のタブレット端末の技能の向上がめざましい。 ・アンケート調査で昨年度よりも向上している項目が多い。 ・タブレット端末の活用、オンライン授業が増えることで、逆に普段の授業の中での、直接のコミュニケーション能力育成の重要性が増すように感じられる。						
生徒指導 (いじめのない学校づくり)	いじめのない学校づくりに努めている。	児童	「学校が楽しい」94%	A	学校生活アンケート、いごちのよい学校生活にするためのアンケート(Q-U検査)、教育相談、そして道徳科の授業を要とし、豊かな心の育成に努めた。また、教育相談員、スクールカウンセラーとの連携、活用を図った。 大多数の児童が楽しく学校に通っている中で、「Cあまりそう思わない・Dそう思わない」と答えた児童が12名いた。「希望の登校 満足の下校の実現」を目指し、児童全員が学校に来ることが楽しいと思えるように、個に応じた指導・支援をしていきたい。	A	A
		職員	『『やさしい子』を日常的に意識し、具現化に向けて努力できたか』100%	A			
		保護者	「子どもが楽しく学校に通っている」96%	A			
生徒指導 (あいさつ)	進んであいさつのできる児童の育成に努めている。	児童	「進んであいさつをしている」90%	A	挨拶については、児童はよくできていると思っているが、職員・保護者は十分とは感じていない。 今年度は、子供自身が自分のこととして意識をもって取り組めるよう、計画委員会が中心となって「あいさつ運動」を実施した。児童、職員、保護者ともに肯定的評価は高まっている。 地域での挨拶については、不審者の心配はあるが、少なくとも知っている大人(例えば友達の家の人、見守り活動をしてきている人)には、挨拶ができる子になってほしいと考えている。	A	A
		職員	「児童のあいさつがよくできている」64%	C			
		保護者	「児童のあいさつがよくできている」67%	C			
学校関係者による意見等	・90%以上の児童が学校に通っていることに安心すると共に、うれしく思う。残りの1割弱の児童のフォローを大切にしてほしい。 ・児童一人一人に寄り添った支援をしているので、児童が安心して学校生活を送っているように感じられる。 ・挨拶ができること、いじめがないことは大切なことだが、直接的な指導だけでなく心理面からのアプローチもよいかもしれない。						
保護者・地域との連携	情報提供とともに地域の教育力を生かしている。	職員	「学校・地域・家庭との連携がうまくなされた」100%	A	新型コロナウイルス感染症予防のため、授業参観や保護者会等、制限のある中での実施となった。実施できないときには、授業や行事の様子をビデオにとり、オンラインで知らせるようにした。また、児童の様子をより伝えられるように、校長室便り「サインはV」を50号以上発行した。 PTA活動はコロナ禍であったが、放課後のパトロール活動、5月の環境美化作業、家庭教育学級等、実施することができた。 学校だより、学年だよりなどは、今後も定期的に発行していく。ホームページについても定期的に更新していく。	A	A
			「保護者への連絡をきめ細かく行い、悩みや相談に丁寧に対応した」97%	A			
		保護者	「PTAや地域と連携した教育が進められている」83%	B			
			「学校の様子をわかりやすく保護者に伝えている」84%	B			
学校関係者による意見等	・校長室便りは、児童の様子をタイムリーに伝えていて、保護者にとってありがたいと思う。温かいメッセージも込められていて、子供たちへのエールのように、気持ちがほっとなごむ。 ・2年間制限された中での活動で、地域のつながりが元に戻るのか懸念している。						

4 次期の重点目標と改善のための方策

<学力向上・特別支援教育>
・目標申告等を活用し、月例テスト等の具体的な数値目標を掲げ、児童・教職員双方の向上へのモラルを高める。
・授業改善を通した指導力向上 ・特別な支援を要する児童に対する指導の一層の充実 ・読書活動の充実 ・ICT(一人1台のタブレット等)の利活用。

<道徳教育>
・道徳教育にかかわる体制を機能させ、特別の教科 道徳の時間を要としながら、全教育活動を通して心豊かでやさしく自信にあふれた児童の育成。